

ふたかみ NEWS プチトマト



3年ぶりにリアルで行われたきょうされん全国大会に参加するため岩手に行ってきました。11年前にあった東日本大震災の復興10年を振り返るという意味も込められ、現地にはたくさんの方が集まりました。復興の現状を見たり、支援の時に会った方を含め、全国のたくさんのなかまと会えて元気をもらってきました。（関口こ）



マスコットキャラクター
高田のゆめちゃん

岩手県陸前高田被災地



社会福祉法人ふたかみ福祉会

〒583-0841 大阪府羽曳野市駒ヶ谷 105 番地 1 TEL 072-959-3221 FAX 072-959-3264

Email: futakami@kagayaku-inochi.com <https://kagayaku-inochi.com/company/>

発行責任者：石本悦二 編集責任者：関口奈緒美



古着市

ふたかみ福祉会後援会では、感染症対策を行った上で古着市を開催します。
ぜひ会場へお越しください。

日時：2022年11月12日(土)10:00～13:00

会場：翠鳥園横空き地(イズミヤ古市店横)

売り物：古着、靴、かばん

雨天中止 前日9時に判断いたします。

※新型コロナウイルス感染拡大状況などにより、内容の変更や中止の可能性がございますので、あらかじめご了承ください。

品物回収の受付は終了いたしました。ご協力ありがとうございました。

このまちで暮らしたい
「障害者生活耕房」(グループホーム)

—建設募金のお願い—

2022年6月openしました！！

新しい暮らしを支える拠点として…

建設募金へのご協力よろしくお願い致します。

◆郵便振替◆

【口座番号】00950-3-225417

【加入者名】社会福祉法人ふたかみ福祉会

◆銀行からゆうちょ振込◆

【金融機関コード】9900 【店番】099 【預金種目】当座

【店名】〇九九店(ゼロキユウキユウ店) 【口座番号】0225417

カフェハピバー

11月の予定

定休日 毎週水曜/日曜

休み 5日(土)

★Instagram★

⇒ cafe-hapibar.com

お問い合わせ先

072-958-3232

■後援会入会及び更新の方々(敬称略)

【2022年9月】

・船越音紹

・中島俊雄

・高野和子 加藤紀子 妹尾睦子

■寄附・・・川原茂登志様 加藤紀子様

■ボランティア・・・垣内秀夫様

■アルミ缶回収(9月分)・・・1303kg

ありがとうございました

◆2022年度ふたかみ福祉会後援会入会、更新のお願い◆

法人では新しくグループホーム2ヶ所をたちあげました

皆様の引き続き日中支援事業所や相談支援へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

【個人会費：1口3,000円 団体会費：1口10,000円】 郵便振替口座：00940-5-325894

きょうせれん全国大会 「ノーマライゼーション」という言葉の知らない街づくりを地域、世界中のすみずみに」

1日目の特別シンポジウムではノーマライゼーションに焦点を当てた発表がされていた。(ノーマライゼーションとは：障害者や高齢者などがほかの人と平等に生きるために、社会基盤や福祉の充実などを整備していく考え方。)障害のある当事者、家族、福祉職員、大学教授、市長、市職員と様々な目線からの発表がされていました。

意見の内容として人的な環境整備、物的な環境整備を求める声。人と人との支えあいの基盤を作ることがノーマライゼーションだと発する方。どんな人でも安心して活動、生活出来る様になることがノーマライゼーションだと話す方。そもそもノーマライゼーションの理解が出来ていないのではないかという意見も。様々な方が思うノーマライゼーションの話がなされていました。開催地の陸前高田市では11年前、震災の被害に遭い、甚大な被害が出ており、安心した生活というものが程遠い環境になってしまっていたそう

です。

人が暮らすことを考えて復興していく中でどのような環境が必要か、どのような制度が必要かを模索し復興していく中での指針としてノーマライゼーションを起点としたアクションプランを作成し、それを基に復興が進められています。一例を挙げると段差のない歩道の確保、車椅子駐車場への屋根の設置、災害時の通路の確保等。児童、高齢、障害に関わらずその街で暮らす方に関するプランが56個も設定されています。震災があり、失ったからこそこれから失わないように、守ることが出来る様に丁寧に検討されている印象を持ちました。そのような風土を作ることが出来ているのは話を聞き入れる、誰でも発信できる地域づくりを進めているからだと思います。今、私たちが暮らしている町で同じことが可能かは分かりませんが、想いを発信していく努力は続けて行きたいと思います。(田岡)

きょうせれん全国大会 分科会「相談・支援」に参加して

初めて全国大会に参加させていただき、恩師である佛教大学の山本耕平先生がアドバイザーを務める「相談・支援」の分科会に参加しました。

この分科会は、福島県に所在するあさがお事業所の方々の東日本大震災の実体験のお話から始まりました。体験の中には「障害があることや放射線を受けてしまったことで、避難所でお手洗いを貸してもらえなかった」との話もあり、避難所で適切な対応を取ってもらえなかった背景を知ることが出来ました。この話を耳にして改めて、人は未知のものを恐れ、排除しようとする所があると感じました。そこから、あさがお事業所の方々から挙げられた「よき理解者であって欲しい」という言葉の通り、理解しようという姿勢を大切にしていきたいと思いました。またさらに多くの方々に理解してもらえよう当事者の方々と共に社会へ働きかけていく必要があると強く感じました。

山本先生のお話からは根強い優生思想により個人の尊厳を蔑ろにされてしまっていた歴史を振り返ることが出来ました。そこから意見交換へ移るにつれて大卒から私たちの身近なやり取りの中での視点へと変換していく事ができ、改めて私たちが大切にしなければならぬ軸の部分を確認することが出来ました。

また意見交換では「じゃあ、またね」の電話の切り方一つでも、具体的に次の約束を取り付けていないことで見捨てられたと感じる方も居れば、明日など期間を指定していない方がゆとりを持って話を聞くことが出来るという方もおり、同じ言葉でも人によって捉え方が変わるという所に考えさせられました。そこから「その人をみつめる」ことが最も大切で本人の希望を聞き、反応を見ながら試行錯誤を繰り返していきたいと改めて思いました。この分科会での気づきを今後の実践の軸にしていきたいと思います。(大前)

障害福祉の未来を変えるセミナー

9月10日と11日の両日で、大阪障害者センター主催の研修がWEBで開催されました。

1日目は、日本障害者協議会代表であり、きょうせれん専務理事である藤井克徳氏、愛媛大学の鈴木静氏、佛教大学の山本耕平氏による講演でした。

藤井氏からは、「関連情勢をどう読み解くか、押さえるべき障害者分野をめぐる政策と運動の課題」というテーマでした。

ウクライナでの現状や津久井やまゆり園障害者殺傷事件から6年経過した現状から見える、優生思想や政策課題などに向き合っていくか、日本国憲法を護り、障害者権利条約をどう生かしていくか、未来に向けてどうあるべきかという骨太な内容でした。

鈴木氏は、「津久井やまゆり園事件を人権の視点から考える」というテーマで、この事件から見える障害のある人、家族、福祉労働者と地域住民の人権の現状と課題という内容でした。スウェーデンのLSS法やILO看護職員条約に触れなが

ら、日本の人権保障を具現化する法制度やケアのあり方、職場のあり方などの問題提起をしておられ、議論を深めることや根拠、裏付けを取る意味での記録の大事さなどを話されました。山本氏は、「あらためて福祉現場のメンタルヘルス」というテーマで、競争主義社会の中でCOVID-19がもたらした危機との向き合いで、福祉実践者・事業経営者に求められることという内容で、様々なデータや統計で裏付けながら、社会不安障害やストレス要因を職場として、どう向き合っていくかという話でした。

三者三様で、切り口とテーマに違いはあれ、福祉現場でこの現状とどう向き合っていくか、どう乗り切っていくか、どう声を挙げていくかというものであり、それらを深く考えさせられる内容でした。

2日目のシンポジウムで、総合実践研究所主任研究員の峰島厚氏の進行で、障害者センターが主催している、研修やプロジェクトチームからの報告があり

ました。

障害のある人の青年期や高齢期などの支援や職員のスキルアップなど、センターがこれまで行ってきた、取り組みの報告と今後に向けての話で、継続によつての知識の積み上げと知識の共有の大事さがよく分かる内容でした。それと同時に、これら積み上げてきたものをどう次世代に繋げていくか、大阪にある様々な事業体でどう共有し、どう繋がって連携を図っていくかという課題も提起されました。

時代の変化とともに新型コロナウイルスによって、交流を深めることや対面で議論を深めるなどが難しくなり、人との関わりが希薄になっている現状に対して、どうしていくのかを深く考えさせられました。知識の共有や経験の積み上げ、福祉に関わる人との連携：どれも障害のある人の支援には欠かせないものなので、学んだことや感じたことをみんなで共有しながら、障害のある人の「これから」をしっかりと考えていきたいと思えた2日間でした。(山下)

今年もしました！「ホーム祭り」

グループホームにて昨年行われたお祭り企画を、今年も各ホームにて行いました。



提灯飾りを吊り下げ、いつものリビングがお祭り会場に！事前に配っていた引き換え券を持って来てもらい、屋台の人(ハッピー姿の職員に渡すとご飯がもらえるという流れです。今回のラインナップは焼きそば、フランクフルト、サラダ、かき氷風アイスの4品。また、輪投げゲームを行い大盛り上がりでした。お祭りが終わった翌日もなかまから「楽しかった！」「またやってほしい」との声が。次回に向けて、皆が楽しめるイベントをまた計画していこうと思います。(経澤)

